

民報 ゆうばり

ロシアは侵略戦争をやめよ ウクライナに非軍事的人道支援を



憲法共同センターでは3月25日に、また、新日本婦人の会夕張支部では翌26日に、それぞれコープさつぽろ夕張店前において、「ロシアのウクライナ侵略」に抗議のアピール行動を行いました。



25日は市内の平和団体である、「明日の平和をつくりだす夕張の会」や「ゆうばり女性9条の会」等19人が集まりました。

ゆうばり女性9条の会から、事務局長の滝口洋子さんが、立憲民主党から千葉清美栗山町議が、日本共産党から、くまがい桂子夕張市議が次のようにスピーチしました。

市民を殺すな 侵略戦争をやめよ

ロシアによるウクライナへの軍事攻撃によって、市民の命が奪われ、1000万人を超える人々が避難民となり、命の危機にさらされています。絶対に許され

ません。日本共産党はロシアの侵略を怒りを込めて糾弾し、侵略を直ちに中止するよう、厳しく求めます。

ウクライナに食料・医療の人道支援を



ユニセフに届けます。ご協力をお願いいたします。

「市民を殺すな」国際世論でロシア包囲を

ことです。いま、世界中で市民が声を上げ、141もの国々が国連の非難決議に賛成し、そしてロシア国内でも、戦争反対のデモが大規模に起きています。これこそが戦争を止める力です。

唯一の戦争被爆国 核兵器をなくす先頭に

どうやって戦争を止める?

「核兵器」で世界をおどし、原発まで攻撃しているプーチン大統領。ロシアの侵略は国際法違反であり、国際平和を土台から壊す暴挙です。絶対に許すわけにはいきません。プーチンが最も恐れているのは、「国際世論」で包囲される

「核の脅し」など通用しない世界をつくるため、日本政府は核兵器禁止条約に参加し、核兵器をなくす先頭に立つべきです。「核の共有」を言い出した安倍元首相や維新の会は、被爆国の政治家、政党として失格です。国連決議を棄権した中国などの国々に、日本政府は外交努力を尽くすべきです。



また、食料、医薬品、資金など、ウクライナの人々への支援が急務です。ただいまこの場にて「ウクライナ支援の緊急募金」を行っています。全額を国連難民高等弁務官事務所、



夕張市文化協会三賞授与式開催



【市長奨励賞】
夕美会

代表 源藤 世栄子様

3月26日令和3年度夕張市文化協会三賞授与式が拠点複合施設りすたで開催されました。コロナ感染防止のため、過去2回開催できず、りすたでは初めての開催となりました。受賞者団体と個人を紹介します。

【夕張市文化協会賞】
50周年記念雪月花展
代表 下向 恵子様

雪月花展は公民館活動として、短歌・俳句・書道・生花の共同創作展として夕張市教育委員会の協力を得て、昭和46年に第一回を開催しました。

【教育長奨励賞】
(故) 笠原 文様

昭和58年5月夕張俳句同好会を結成し、代表として同好会の発展に努力をした。雪月花展や各種展示会等で作品を発表し、また老人クラブ等で俳句講座を開催した。

【文化協会奨励賞】
齋藤 希美 様

昭和59年12月友人に誘われて夕張歌人會に入会し、新墾(にいほり)主宰の足立敏彦先生の指導を受けました。毎年、新春短詩文芸大会・夕張市民短歌大会等に参加。



くずさんの 夕張歴史散歩(176)

石炭のはなし (夕張駅編②)

二代目の夕張駅は、市民会館(現在閉鎖)の裏手ということもあり、人の流れは順調ではありませんでした。しかし、ともかくも炭鉱用地を離れ、ようやく駅を中心とした街づくりが始まりました。

私鉄夕張鉄道(ちよつと寄り道)

ところで、この市民会館のところに、もともと駅があったのです。

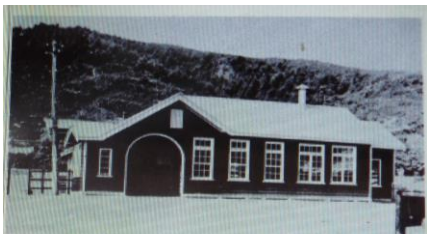
北炭は、炭鉱で使う土砂の採集と札幌への交通の便を目的に、1921年(大正10)「夕張鉄道株式会社」を設立します。1924年(大正13)第一期工事として新夕張(栗山間)に着工、第二期工事をへて1930年(昭和5)夕張(野幌)間5.3kmが全線完成して、1926年(大正15)10月開業します。

「新夕張駅」完成

この「夕張鉄道」の始発駅が「新夕張駅」(後に本町駅と改名)として、市民会館が建設される前までであったのです。(後に姿を変える)

開業当時、駅前賑わいはたいそうなものだったと言われます。その後もラーメン店、白戸家具店、吉野木材、第一ハイヤー、マルヨ酒造などが軒を連ねていました。

夕張鉄道の沿線には、全国的には珍しいスイッチバック方式の線路があり、急坂を登ったのです。下ったところに錦沢公園遊園地があり、大きな池にはボートが浮かび、桜の名所としても長らく炭鉱に働く人や家族の憩いの場として賑わいました。特徴的だった若菜駅は残っていませんが、旧新二股駅にその原型を見ることが出来ます。



(大正15年、開業時の新夕張駅 写真集夕張より)



紙智子「国会かけある記」
参議院議員

紙智子

ウクライナ支援の世論を広げよう

ウクライナ支援募金が全国から党中央委員会に寄せられています。3月25日、大門実紀史参院議員と国連難民高等弁務官事務所に届けました。前日に、いわぶち友参院議員が市田忠義副委員長と日本ユニセフ協会へ支援募金を届けました。侵略戦争中止、ウクライナ支援の世論を広げましょう。

先立って23日、沖縄・北方特別委員会で、ロシアの侵略を受けて日ロ外交について質問しました。安倍元総理が進めた「新しいアプローチ」と称する日ロ領土交渉は破たんしたとただしました。林外相は「今後の対応は言えない」と現実から目をそらす答弁に終始し、毅然とした外交姿勢は見られません。

あわせて、沖縄の本土復帰から50年たつのに本土との経済格差が改善されない問題を取り上げました。発展を邪魔をしているのが米軍基地であり、「基地撤去こそ真の振興だ」と指摘するとともに、離島医療の問題と沖縄の基幹産業であるサトウキビによる黒蜜糖工場への支援を求めました。

16日の深夜に発生した震度6強の福島県・宮城県沖地震は日本が地震大国であることを改めて示しました。宮城県山元町のイチゴ生産者が被害を受けたとの報告をうけ、航路で仙台市へ、生産者から被害状況をお聞きし、農林水産委員会で支援を求めました。

合間を縫って参加した、青森県での「党を語る会」で、参議院選挙勝利に向けて話をした後、21歳の学生を党に迎え、喜び合いました。